

	名前
--	----

●序章 ヒトとして生まれ、人として生きる

QUESTION 0-1

あなたの父母や祖父母など周りの年配の人に、どのような子ども時代を送っていたのか、また、いまのあなたと同じ歳の頃に、何を考えたり何に悩んでいたりしたのか、毎日をどのように過ごしていたのか、話を聞いてみよう。

QUESTION 0-2

生まれてから死ぬまでの一生をいくつかの時期に分けるとするならば、どのように分けられるだろうか。そのように分けた理由は何だろうか。

名前

●1章 発達するとはどういうことか

QUESTION 1-1

「心が発達する」とはどういうことだろうか。横軸を時間軸（年齢）とし、縦軸は自由に設定して、あなたが考える「心の発達」をグラフに描いて説明してみよう。

QUESTION 1-3

私たちヒトには、他の動物には見られないさまざまな特徴がある。その特徴を、できる限り多くあげてみよう。また、なぜそのような特徴が備わったのかを考えてみよう。

QUESTION 1-2

大正期から現代にかけてのライフサイクルの変化として、寿命の伸長の他にどのようなことがあげられるだろうか。図 1.1 をもとに考えてみよう。

QUESTION 1-4

人の性格（外向性や誠実さなど）、言語能力、空間認知力の個人差に、遺伝や環境はそれぞれどの程度関わっているのだろうか。直感的に答えてみよう。

名前

●2章 生命の芽生えから誕生まで

QUESTION 2-1

ひとりのヒトは、1つの精子と1つの卵子が出会い、その受精卵が母親の胎内で約40週間弱をかけて成長し、ようやくこの世に生まれる。このような過程を経て、あなたがこの世に生まれてきた確率はどれくらいだろうか。

QUESTION 2-3

あなたを妊娠していた間、あなたの母親や父親はどのようなことを感じたり考えたりしていたのだろうか。また、あなたが生まれた瞬間はどうだったのだろうか。母親や父親に、あなたが母親のお腹にいたときや出産時のエピソードを尋ねてみよう。



QUESTION 2-2

胎外へ出るまでの間、胎児は母親の胎内で何をして過ごしているのだろうか。どのように身体を動かしているのだろうか。胎児に人の声や音は聞こえているのだろうか。聞こえているのだとすれば、どのように聞こえているのだろうか。

QUESTION 2-4

出生前診断を行うことは、誰（親、胎児、医療関係者、社会など）にとってどのような利益・不利益があるだろうか。話し合ってみよう。

※誤植訂正：「出生前診断」→「出生前検査」に訂正

	名前
--	----

●3章 見て・さわって・感じる——赤ちゃんがとらえる世界

QUESTION 3-1

次の中で、生後半年の赤ちゃんができることは何だろうか？

- (a) お母さんの顔と他の女性の顔の区別
- (b) 小さな数（例えば、「2」と「3」の区別）
- (c) 援助的行為と妨害的行為の区別



QUESTION 3-3

表象が十分に発達していない世界を考えてみよう。もし、表象能力がなければ、どうやって世の中を理解できるだろうか。

QUESTION 3-2

弟や妹、親戚や近所の子どもなど、身近な子どもの様子を観察してみよう（身近に子どもがいない場合は、アニメのキャラクターなどを想像してみよう）。ピアジェの発達段階のどれに当てはまるだろうか。その段階の特徴が、子どもどのような行動に現れているだろうか。

QUESTION 3-4

乳児期に社会性の萌芽が見られる意義を考えてみよう。

	名前
--	----

●4章 他者との関係性を築く——コミュニケーションと人間関係の発達

QUESTION 4-1

まるまるとしていて、目が大きな赤ちゃん。赤ちゃんを見たとき、あなたはどう感じるだろうか。赤ちゃんに泣かれたら、どう感じ、何をしようとするだろうか。赤ちゃんに微笑みかけられたら、どう感じ、何をしようとするだろうか。

QUESTION 4-2

多くの国で、子どもが幼稚園に通い始める年齢は3歳とされている。アタッチメントの発達から、その理由を考えてみよう。

QUESTION 4-3

1,2歳前後の子どもと親のやりとりを、何組か観察してみよう。親子によって、やりとりの仕方にはどのような違いが見られるだろうか。

QUESTION 4-4

幼い頃、あなたはどのような人と、どのような関わりをもっていたらだろうか。また、その人はあなたにとって、どのような存在（遊び相手、何かを教えてくれる相手、甘えられる相手など）だっただろうか。

	名前
--	----

●5章 「いま」「ここ」をこえて——言語と遊びの発達

QUESTION 5-1

私たちが想像の世界を表現したり人に伝えたりする手段には、どのようなものがあるだろうか。できるだけたくさんあげてみよう。

QUESTION 5-2

言葉を話せるようになるためには、どのような機能や能力が必要だろうか。思いっただけあげてみよう。

QUESTION 5-3

写真の男児はポスターの車の絵を指さして、母親を見ている。
男児が何を伝えようとしているか、男児の台詞を自由に考えてください。



QUESTION 5-4

保育園や幼稚園に通うくらいの子どもと親との会話や、子ども同士の会話を聞いて、メモしてみよう。どのような特徴があるだろうか。

QUESTION 5-5

乳幼児の頃、あなたはどんなことをして遊んでいただろうか。幼い頃の写真を見たり、親に尋ねたり、記憶をたどったりしながら思い出してみよう。

	名前
--	----

●6章 自分を知り、自分らしさを築く——関わりの中で育まれる自己

QUESTION 6-1

私たちは、何を手がかりに、自分と他者が異なることや、自分が自分であることがわかるのだろうか。

QUESTION 6-3

自分が危ないことやよくないことをしようとしているときに、それを止めたり叱ったりしてくれる人が誰もいなかったとしよう。どのような気持ちになり、何をしようとするだろうか。

QUESTION 6-2

スーパーなどで、自分の要求が通らなくて床にひっくり返って泣いている2歳くらいの子どもの見たことがあるだろう。この年代の子どもはなぜ、そのような行動をとるのだろうか。

	名前
--	----

●7章 関わりあって育つ——仲間の中での育ち

QUESTION 7-1

自分自身の子どもの頃のことを思い出してみよう。何歳頃から、他者の感情や考えていることがわかるようになったのだろう。また、何歳頃からうそをつけるようになったのだろう。

QUESTION 7-3

私たちは幼い頃から「うそをつくな」と親や教師から指導を受けるものである。それでは、本当に「うそをつくことが許されない」とすれば、私たちの日常生活にどんな不都合が生じるだろうか。

QUESTION 7-2

「心の理論」がない世界を想像してみよう。私たちがお互いに、人の行動を、欲求や信念といった心の状態と関連づけて考える能力をもっていないとしたら、私たちがふだんしていることで、できなくなることは何だろうか。

QUESTION 7-4

共感性には、感情認知（認知的共感）と感情共有（情動的共感）の2つの側面がある。ここで、もし、どちらか一方がうまく働かないとしたら、どのようなことが生じるだろうか。具体例をあげて考えてみよう。

	名前
--	----

●8章 思考の深まり——学校での学び



みなさんが小学生だった頃を思い出してみよう。例えば算数の時間には、算数セットやおはじきを使って、数のしくみを学んだのではないだろうか。なぜ算数セットで学ぶとわかりやすいのだろうか。大人と子どもの思考の違いを考えてみよう。

QUESTION 8-1

QUESTION 8-2

人間の記憶には、どのような種類のものがあるだろうか。できるだけ多く考えてみよう。

QUESTION 8-4

やる気を高めるには、どのような方法があるだろうか。

QUESTION 8-5

記憶や動機づけが単に機能するだけでなく、適切な場面であまり機能するためには、どのような能力が必要になるだろうか。

QUESTION 8-3

記憶のしくみをふまえると、どのような学習のしかたが効率的なものといえるだろうか。

名前

●9章 子どもからの卒業

QUESTION 9-1

思春期の身体変化にはどのようなものがあげられるだろうか。
また、その変化は、日常生活にどのような変化をもたらすだろうか。

QUESTION 9-4

児童期までの認知発達(⇨第7,8章)を基盤に、自分への見方も青年期には大きく変わる。どのような変化が見られるだろうか。

QUESTION 9-2

「美しい外見」とはどのようなものだろうか。時代や国や民族によるそれぞれの「美しい外見」の基準を調べてみよう。

QUESTION 9-5

中学生の頃、あなたは友だちと本音で付き合い合っていただろうか。できなかったとしたら、なぜそうだったのだろうか。また、そのときの友だち関係といまの友だち関係は、何が違うだろうか。恋愛関係、親子関係についても考えてみよう。

QUESTION 9-3

多様な性を生きるそれぞれの人たちの生きづらさにはどのようなものがあるか、考えてみよう。

名前

●10章 大人になるために

QUESTION 10-1

子ども、青年、大人のうち、あなたは自分をどれに属すると考えるだろうか。またそのように考える理由は何だろうか。

QUESTION 10-2

次の文章はあなたにどのくらい当てはまるだろうか。もっとも当てはまる場合を5として、5段階で回答してみよう。

- A 自分が将来するかもしれない、いろいろなことについて考える ()
- A 自分に合ういろいろな生き方を考えている ()
- B 自分の人生をどうするのかについては、自分で選んで決めた ()
- B 自分が将来何をやっていくのか、思い浮かべることができる ()
- C 自分がすでに決めた将来の計画について考える ()
- C ほかに人たちと、自分の将来の計画についての話をする ()
- D 私の将来の計画は、自分にとって正しいものに違いない ()
- D 将来の計画があるから、私は自信をもっている ()
- E 人生で本当にやりとげたいことは何か、はっきりしない ()
- E 自分が進みたい人生を、ずっと探し続けている ()

これは、アイデンティティがどのような状態にあるのかをとらえる尺度の項目の一部である。自分のアイデンティティを探し求める態度 (A)、そこから答えが見えてきた状態 (B)、出した答えで本当にいいかどうかさらに見極めようとする態度 (C)、その答えでよいと確信をもつことができている状態 (D)、アイデンティティを探し求める過程で悩みにはまりこんでいる状態 (E) の5つの側面をとらえようとするものである。B、Dが高く、A、Cが中程度に高くEが低い場合には「達成」、B、Dのみが高い場合は「早期完了」、A、B、C、Dのいずれも高い場合には「探索モラトリアム」、Eのみが高い場合やA、B、C、Dのいずれもが低い場合には「拡散」の状態と解釈される(中間ほか、2015)。

QUESTION 10-3

江戸時代のように生まれた土地や家で生き方が決まっている場合、現代社会と比べて、どのような点はより幸福で、どのような点はより不幸だろうか。

QUESTION 10-4

次の考えについて、あなた自身は賛成か、反対か、考えてみよう。また、そう答える理由を考えてみよう。

- ① 男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである
- ② いったん結婚したら性格の不一致くらいで別れるべきではない
- ③ 生涯独身で生きるというのは望ましい生き方ではない
- ④ 結婚したら家庭のために自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だ

	名前
--	----

●11章 関わりの中で成熟する

QUESTION 11-1

かつて、40歳は「不惑」「四十にして惑わず」といわれたが、青年期や成人初期に感じた揺らぎはなくなるのだろうか。人生後半も発達するのだろうか。

QUESTION 11-3

あなたが親になるとしたら、子どもは何人？ 子育ては自身の成長にどうつながるのだろうか。母親は仕事を辞めて、子育てに専念した方がよいのだろうか。

QUESTION 11-2

職業生活を通して、人びとには、どのような発達が認められるのだろうか。また、成人中期には、どのような課題に向き合うのだろうか。



名前

●12章 人生を振りかえる

QUESTION 12-1

成人後期(高齢期)になると、どのような心理的变化が起こるのだろうか。また、あなたは高齢者や歳をとることをどのようにとらえているだろうか。

QUESTION 12-2

次の文章について、「そう思う(5)」「まあそう思う(4)」「どちらともいえない(3)」「あまりそう思わない(2)」「そう思わない(1)」の5段階で回答してみよう。

1. 多くの高齢者は、けちでお金を貯めている()
2. 多くの高齢者は古くからの友達でかたまっ、新しい友達を作ることに興味がない()
3. 多くの高齢者は過去に生きている()
4. 高齢者に合うと、時々目を合わせないようにしてしまう()
5. 高齢者が私に話しかけてきても、私は話をしたくない()
6. 高齢者は、若い人の集まりに呼ばれた時には感謝すべきだ()
7. もし招待されても、自分は老人クラブの行事には行きたくない()
8. 個人的には、高齢者とは長い時間を過ごしたくない()
9. ほとんどの高齢者は、同じ話を何度もするのでイライラさせられる()

(注) 質問項目は日本語版 Fraboni エイジズム尺度(FSA)短縮版(原田ら, 2004)の一部である。1から3が「誹謗」、4から6が「回避」、7から9が「嫌悪・差別」の項目である。

QUESTION 12-3

高齢期には、知的能力は衰えてしまうのだろうか。衰えを回避できるのだろうか。また、老賢者といわれるような知恵を身につけることができるのだろうか。認知機能の変化はエイジング・パラドックスとどのように関連するのだろうか。高齢者のことを思い浮かべて考えてみよう。

QUESTION 12-4

死が身近になる高齢者にとって、パーソナリティは変容するのだろうか。人生をどのように振りかえり、意味づけるのだろうか。高齢者の心の安寧にはどのようなことが関連するのだろうか。

QUESTION 12-5

あなたは、将来、生涯現役と悠々自適の生活のどちらが希望だろうか。また、高齢者にとって、孫はどのような存在だろうか。

QUESTION 12-6

超高齢社会の中で、高齢者にとって、死はどのようなものだろうか。50年後、あなたは、重篤な病気や死期の告知を望むだろうか。延命治療を望むだろうか。親や祖父母のこととして考えると、何か違いはあるだろうか。

	名前
--	----

●13章 発達は十人十色——発達におけるつまずきをどう理解し支えあうか

QUESTION 13-1

幼稚園の年中クラス。A君は皆が鬼ごっこをしても気にせず、1人でミニカーを並べている。B君は紙芝居の時間、立ち歩いたり先生に話しかけたりしている。集団のルールを守って皆と同じ行動をとるよう、叱るべきだろうか。

QUESTION 13-3

認知症になると、何もわからなくなるのだろうか。あなたの家族が日時を間違えたり、季節はずれの服を着ていたらどうすればよいのだろうか。

QUESTION 13-2

あなたの周りにいる人の大半はスワヒリ語を話す。あなたは日本語しか話せなかったとしよう。①あなたがこの先、周りの人たちとコミュニケーションをとれるようになるためには、どのような方法が考えられるだろうか。②スワヒリ語が話せないあなたを、周りの人たちが繰り返し嘲笑したり叱責したりしたら、あなたはどのように感じるようになるだろうか。

QUESTION 13-4

「情報化」など、現代を表す言葉をできるだけ思い浮かべてみよう。時代や文化は、発達やつまずきにどのような影響を及ぼすのだろうか。